

令和 2年度 行政評価事業別シート

| | | | | | | | |
|--|---|---|------------------------------------|--|--|------------|------|
| | 実計対象 <input checked="" type="checkbox"/> | 評価対象 <input checked="" type="checkbox"/> | 新規 <input type="checkbox"/> | 完了事業 <input type="checkbox"/> | ゼロ予算事業 <input type="checkbox"/> | 担当者 | 原 和嘉 |
| | 全体計画 | | | 経費区分 | 実施計画事業費 | 内線 | 3428 |
| 事務事業名 | 9953 産業連携事業 | | | | | | |
| 所 属 | 150200 産業振興部・産業連携開発課 | | | | | | |
| 施 策 | 05022300 既存産業の高度化・高付加価値化の促進 | | | | | | |
| 予算科目 | 会計 | 01 一般会計 | | | | | |
| | 科目 | 070102 商工費・商工費・商工業振興費 | | | | | |
| | 事業 | 040000 産業連携事業 | | | | | |
| 事業目的 | | | | 事業概要・効果 | | | |
| 産業の連携により意欲のある企業の研究開発や販路拡大などの支援を積極的に行うことにより、産業の活性化を図り、併せて産学官・産学・産産・産学官金の連携による新産業の創出を図る。 | | | | 須坂市の産業構造を自律発展型産業構造へと変換していくため、産業コーディネート・アドバイス事業を実施し、意欲のある企業への積極的な支援により、産学官金連携による新産業創出や研究開発の推進、提案公募型の研究開発事業の導入と既存補助制度を活用した支援を行なった。 平成28年度は「ものづくり補助金」などの申請書作成支援を9件行い、4件が採択されるなどの成果が出てきている。 | | | |

PLAN-DO
年度実績及び予定

| 平成27年度 実績 | 平成28年度 実績 |
|--|---|
| 産業CO, 産業ADによる中小企業の設備導入、技術開発のための「ものづくり中小企業・小規模事業者試作開発等支援補助金」の導入支援を行う。平成27年度開校須坂創成高等学校のデュアルシステム受け入れ体制の運営を行った。 | 産業CO, ADによる設備導入、技術開発のためのものづくり補助金の導入支援を行い、4社が採択された。須坂創成高校デュアルシステム協力企業と連携し、2年生就業体験の受入支援を行った。地方創生加速化交付金を活用しフルーツ発泡酒事業の推進を行った。 |
| 平成29年度 実績 | 平成30年度 実績 |
| 産業CO, ADによる設備導入、技術開発のためのものづくり補助金の導入支援を行い、8社が採択された。須坂創成高校デュアルシステム協力企業と連携し、就業体験、企業実習の受入支援を行った。地方創生推進交付金を活用しフルーツエール事業の推進を行った。 | 産業CO, ADによる設備導入、技術開発のためのものづくり補助金の導入支援を行い、11社が採択された。須坂創成高校デュアルシステム協力企業と連携し、就業体験、企業実習の受入支援を行った。地方創生推進交付金を活用しフルーツエール事業の推進を行った。 |
| 平成31年度 実績 | 令和 2年度 予定 |
| 産業CO, ADによる設備導入、技術開発のための「ものづくり補助金」の導入支援をい、6社が採択された。須坂創成高校デュアルシステム協力企業と連携し、就業体験、企業実習の受入支援を行った。地方創生推進交付金を活用し、フルーツエール事業を推進した。 | 産業CO, ADによる設備導入、技術開発のための「ものづくり補助金」の導入支援を行う。須坂創成高校デュアルシステム協力企業と連携し、就業体験、企業実習の受入支援を行う。 |

| | | | | | |
|-----------|---|--------|--------|--------|-------|
| 指標名 | 提案公募型事業の導入件数 | | | | |
| 算式 | 国、県等の提案公募型事業の導入件数 | | | | 単位 件 |
| 年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 平成31年度 | 令和2年度 |
| 目標値 | 目標 | 10 | 10 | 10 | 10 |
| | 実績 | 1 | 4 | 6 | 6 |
| 指標選定の理由 | 地域活性化、企業の技術開発のための開発資金を国、県などの提案公募型事業、競争的資金などの外部資金を有効的に活用することにより産業の活性化および企業の技術開発支援を行う。 | | | | |
| 最終年度目標の根拠 | 経済産業省、農林水産省の提案公募型事業の採択件数および企業向け技術開発等補助金「革新的ものづくり・商業・サービス開発支援補助金」等の申請書作成支援を行った結果の採択件数。 | | | | |
| 指標名 | 企業及び次世代技術者向け人材育成講座の企画・開催 | | | | |
| 算式 | 講座開催回数 | | | | 単位 回 |
| 年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 平成31年度 | 令和2年度 |
| 目標値 | 目標 | 8 | 8 | 8 | 8 |
| | 実績 | 6 | 10 | 8 | 8 |
| 指標選定の理由 | 企業の競争力向上のため、技術者、技能者の基礎知識、応用力を高めるための専門的技術、理論に関する講座を企画・開催する。一方で次世代技術者、小中学生向けものづくりに関する講座の企画・開催も行う。 | | | | |
| 最終年度目標の根拠 | 企業ニーズに合った講座開催により、企業の競争力向上に寄与する。産業の活性化、高度化に向けて継続した支援するため。 | | | | |
| 指標名 | | | | | |
| 算式 | | | | | 単位 |
| 年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 平成31年度 | 令和2年度 |
| 目標値 | 目標 | | | | |
| | 実績 | | | | |
| 指標選定の理由 | | | | | |
| 最終年度目標の根拠 | | | | | |

事業費

(単位：千円)

| | | 平成31年度 決 算 | 令和2年度 予 算 |
|------------|---------|---------------|--------------|
| 事業費 | | 33,402 | 20,315 |
| 特定 財源 | 国庫支出金 | 9,100 | 0 |
| | 都道府県支出金 | 0 | 0 |
| | 地方債 | 0 | 0 |
| | その他 | 451 | 5,445 |
| 一般財源 | | 23,851 | 14,870 |
| 人員数 (人) | 正規職員 | 1.6 | 1.6 |
| | 嘱託職員 | 0.8 | 0.8 |
| | 臨時職員 | 0.0 | 0.0 |
| 人員 コスト | 正規職員 | 11,624.0 | 11,624.0 |
| | 嘱託職員 | 2,263.2 | 2,263.2 |
| | 臨時職員 | 0.0 | 0.0 |
| | 計 | 13,887.2 | 13,887.2 |
| 市民一人当たりの経費 | | 0.9 | 0.7 |
| 総額 | | 47,289.2 | 34,202.2 |

(単位：千円)

| 平成31年度決算 事業費の内訳 | | |
|-----------------|--------|--|
| 主な節 | 金額 | 内容 |
| 8節 報償費 | 60 | 講師謝礼60 |
| 11節 需用費 | 27 | 消耗品費27 |
| 13節 委託費 | 439 | 地域研究開発促進支援事業400 メーリングシステム保守管理38 |
| 15節 工事請負費 | 0 | |
| 19節 負担金補助及び交付金 | 21,732 | 産業フェアin信州負担金1,422 新技術・新製品開発事業2,000 信州須坂フルーツエール推進協議会負担金18,200 他 |
| その他 | 11,144 | 産業コーディネータ、アドバイザー報酬8,035、嘱託職員報酬2,262、旅費394 |

(単位：千円)

| 令和 2年度当初予算 事業費の内訳 | | |
|-------------------|--------|--|
| 主な節 | 金額 | 内容 |
| 7節 報償費 | 80 | 講師謝礼80 |
| 10節 需用費 | 46 | 消耗品費48 |
| 12節 委託費 | 477 | 専門家派遣事業委託料30、地域研究開発促進支援事業委託料400、マーキングシステム保守管理委託料47 |
| 14節 工事請負費 | 0 | |
| 18節 負担金補助及び交付金 | 3,958 | 産業フェアin信州平実行委員会金1,448、新技術・新製品開発事業補助金2,000、研究開発等特許支援事業 他 |
| その他 | 15,754 | 産業コーディネータ、アドバイザー報酬7,440 会計年度任用職員報酬1,976 旅費502 農商工観共創支援貸付金5,000 他 |

CHECK

| 個別評価 | | |
|--------|--|-------|
| 項目 | 評価観点 | 評価内容 |
| 必要性 | <ul style="list-style-type: none"> 市民の生命・財産を守るため市が実施することが必要不可欠な事業であるか 行政内部の管理運営上必要な事業であるか 市が主体となり実施すべき事業か 法的な根拠や公的関与の妥当性はあるか 目的は結果（施策の目指す理想）に結びついているか | 普通 |
| 評価コメント | 企業の技術革新、技術開発を支援することで、各企業の労働生産性の向上、収益の増加を図っている。 | |
| 有効性 | <ul style="list-style-type: none"> 事業の成果は上がっているか 目標に対する達成度は十分か 市民生活上の課題解決に貢献しているか 行政内部の管理上の課題解決に貢献しているか 事業の目的が達成できるような事業内容になっているか | 普通 |
| 評価コメント | 補助金の存在を知らない事業者も見受けられるため、様々な機会を通じて補助金への申請、活用をアピールしていく必要がある。 | |
| 効率性 | <ul style="list-style-type: none"> 成果を落とさずにコストを削減する方法はあるか 効率性向上に努めているか 使用料などの受益者負担や補助対象事業の範囲など、財源確保の余地はないか | 変わらない |
| 評価コメント | 限られた予算の中で、市内企業等で構成される研究会、勉強会等を通じ、各事業者への支援を行っている。 | |

振り返り（決算年度の取組み課題）

- ・ 予算内の補助金について、企業の中にはその存在を認知していない企業もあるため、補助金の活用をアピールしていく必要があるが、取り組みが十分でない状況にある。引き続き各事業者にアピールしていく。
- ・ フルーツエール事業については、地方創生推進交付金が昨年度で終了した。今後はブルワリーの自主運営が基本となるが、(株)クルークダイニングからの負担金をもとに、信州須坂フルーツエール推進協議会の事務局として支援していく。

ACTION

1次評価

2次評価

| | | | |
|--|------------|--|------------|
| 次年度以降の方向性 | 総合計画に沿って継続 | 次年度以降の方向性 | 総合計画に沿って継続 |
| 総合評価コメント | | 2次評価コメント | |
| <p>国交付金によるフルーツエール推進事業は一定の成果を得たが、継続して推進協議会事業を支援していく。産業CD・AD事業により災害後の復興支援と産業の高度化・高付加価値化を促進させる。</p> | | <p>産業活性化のため、意欲ある企業への支援を継続し、連携による新産業創出等を図る。継続してフルーツエール推進協議会を支援していく。</p> | |

外部評価

| | |
|-----------|--|
| 次年度以降の方向性 | |
| 外部評価コメント | |
| | |